

# ソーシャルディスタンスを基本に 密閉空間の展示室の感染リスクを低減



ベンチの間隔を空けるための表示

- ✓ 人数制限など、密をつくらない対策を実施
- ✓ 手が触れる場所のアルコール消毒を徹底
- ✓ 人が集まるギャラリートークなどは中止に

## ー コロナ対策における、美術館ならではの難しさは？

美術品の展示室は、作品保護の観点から密閉空間としたうえで、空調によって温湿度をコントロールすることが必須となります。そのため、外気を入れている換気が難しいことが施設としての課題と言えます。

## ー そうした特性のなか、どのような対策を行っているのでしょうか。

展示室内が密にならないよう、お客様の入場の際に一定の人数制限を設けております。そのうえで、作品が展示されている壁面に沿って、ソーシャルディスタンスを確保するための目安となる1m間隔のマーキングを床面に設けるとともに、お客様が利用されるベンチ・椅子には、間隔を空けて座っていただくための表示を行っています。当美術館ではこれまで、展覧会関連の講座・ギャラリートークなどを実施してきましたが、作品を見ながらの解説などではどうしても人が集まるため、当面、中止しております。また、接触による感染リスクを考えて音声ガイドの貸し出しも休止しております。その代わりに、館内をご紹介するチラシなどを従前よりも積極的に作成し、お持ちいただけるようにしています。

## ー それ以外に、どのような感染防止対策をとっていますか。

エントランスにアルコールの手指消毒剤を配置するとともに、「新北海道スタイル」安心宣言、北海道コロナ通報システムの告知などを掲出してお客様への意識付けを行っています。また、受付カウンターには飛沫感染を防止するスクリーンを設けているほか、手すり・エレベーターボタン・玄関ドアなど、お客様の手が触れる場所について、スタッフがアルコール消毒を徹底して実施しています。同時に、職員による感染を防止するため、出勤前に検温を行い、その結果や体調について健康管理シートに必ず記入しています。なお、検温で37.5℃以上の発熱があった場合は出勤させず、自宅で療養することとしています。

## ー 今後、どのような取組を考えられていますか。

美術館はそもそも、あまり会話をしない場所なので、手指消毒・マスクの着用を徹底し、ソーシャルディスタンスを確保することで感染リスクを低減できると考えますが、何らかの安全策を講じたうえで、体験会などのイベントを少しずつでも再開できないかと検討を進めているところです。

(椅子は一席おきに使用)



(受付のスクリーン)



(館内を紹介するチラシ)



(健康管理シートを記入)



(エントランスの告知・消毒液)



(展示室床のマーカ)



### 【企業プロフィール】

名称:公益財団法人似鳥文化財団

本社:小樽市、札幌市

業種:美術館

概要:ニトリグループが2016年に開設し、20年より公益事業として運営する小樽芸術村にある美術館。旧北海道拓殖銀行小樽支店の建物に日本画・洋画・木彫などを展示。

H P : <https://www.nitorihd.co.jp/otaru-art-base/>

TEL : 0134-31-1033